

仏教への改宗を強要されても多くの潜伏キリシタンは信仰を維持する

島原・天草一揆は幕府に衝撃を与えた。1639年、幕府はポルトガル船の日本への来航を完全に禁止し、鎖国政策に乗りだした。平戸にあったオランダ商館は長崎の出島という人工の島に移されたものの、カトリックと対立していたプロテスタントのオランダ人が、ポルトガル人に代わって日本の貿易相手となった。

1617年から1644年までに75人の宣教師と1,000人以上の日本人キリシタンが処刑された。弾圧は一段と厳しくなり、幕府は聖画像やメダイなどの信心具を踏ませて（この習慣は絵踏と呼ばれる）キリシタンの摘発に努めた。さらに、信徒を仏教へ改宗させて宗門改帳に記載するなど寺院の管理下に置いた。それでもなお、多くの信徒がひそかにキリスト教の信仰を守り通した。

厳しい禁教下、1642年と1643年には日本に密入国した10人の宣教師が捕らわれた。日本に残された最後の宣教師とされる小西マンショが1644年に殉教し、ザビエルに始まった宣教師と日本人の交流によるキリスト教宣教はついに途絶えた。しかし、潜伏キリシタンのひそかな信仰の継承によって、ザビエルがともした明かりは決して消えることはなく、ヨーロッパの影響は残され続けた。

（挿画：庄司好孝）

年表

- 1543 ポルトガルより鉄砲伝来。日本とヨーロッパの文化が初めて接触
- 1549 フランシスコ・ザビエル鹿児島に上陸
- 1550 平戸に最初のポルトガル船来航し、南蛮貿易が始まる。長崎地方にキリスト教伝来
- 1563 大村純忠が横瀬浦で洗礼を受ける
- 1571 長崎開港
- 1579 アレックスandro・ヴァリニャーノ来日
- 1580 長崎がイエズス会領となる
- 1580 有馬晴信が日野江城にて洗礼を受ける
- 1580 有馬にセミナリヨ開設
- 1582 天正遣欧使節、長崎出発
- 1584 天正遣欧使節がスペイン国王に謁見
- 1584 有馬晴信が浦上村をイエズス会に寄進
- 1585 天正遣欧使節が2人のローマ教皇に謁見
- 1587 伴天連追放令発布
- 1597 外国人修道士6名を含む信徒26名が殉教

1603 江戸幕府が開かれる

1614 江戸幕府によるキリスト教禁教令発布

1637 島原・天草一揆勃発

1644 最後の宣教師が殉教。日本国内に神父が不在となる